

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2277102709		
法人名	有限会社ライフクリエーション		
事業所名	グループホーム「グランマ」	ユニット名	ばら
所在地	静岡県浜松市西区村櫛町3962		
自己評価作成日	平成22年9月19日	評価結果市町村受理日	平成23年3月4日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://www.kaigo-kouhyo-shizuoka.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2277102709&SCD=320>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	セリオコーポレーション有限会社 福祉第三者評価・調査事業部		
所在地	静岡県静岡市清水区迎山町4-1		
訪問調査日	平成22年11月29日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当グループホームでは、「人間としての尊厳を大切に」という理念を第一に掲げています。個人の意志や自由を最大限尊重し、誇り高い生活を送っていただくという理想のもと、職員は、利用者の方々を日々お世話する中で、自問自答しながら、又、職員間で話し合いながら目標に向かって努力しています。豊かな自然に囲まれた環境は、利用者の心を穏やかに、優しくしてくれます。庭に出てお茶を飲んだり、風や光を感じながら散歩することで、人間本来の働きを回復して行きます。利用者の方々がいつまでも元気でいられるよう、脳リハビリを毎日楽しく行っており、利用者の皆さんが別名“グランマ学園”と呼んでくれています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

浜名湖に隣接し、静かで落ち着いた環境に包まれた施設である。庭には色とりどりの花が咲き、藤棚の下のベンチでは利用者同士や職員との語らいの場となり毎日の外気浴が快眠・健康維持効果をもたらし、利用者の笑顔につながっている。施設長は理想を求める理念の下、更なる質の向上のため教育目標を立て、全職員が理解できるよう教育しており、その取り組みが利用者一人ひとりを尊重し丁寧に接し、個性を重んじるケアの中で自由に心穏やかに生活することが安心感と自信につながっている。また家族会も継続され家族同士の交流が退去された後も家族はボランティアとして参加している。地域福祉貢献へ力を入れている頼もしい施設である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員は理念を明確に理解しており、その理念のもとに各自が深く掘り下げた理念を共有し、実践・具体化している。	法人の理念を職員全員で共有し、実践・具体化していくよう、職員が解り易い目標に明文化している。「ご利用者の笑顔がご家族の満足度のバロメーター」として、理念の深化定着に継続して務めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎日、散歩時ゲートボールをしている地域の方々と公園で話を交わす。祭り・運動会・催し物に参加。地域のボランティアの踊り・音楽の訪問あり。	代表が地元開設した事業所なので、地域との結びつきは強固である。自治会に加入し、村櫛展やガーデンパーク展では地域の人々の絵・習字・その他の作品と共に利用者も出展している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地元の小・中学生・大学生が夏休みに研修の場として訪れている。いつでも見学・相談・ボランティアを受け入れている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	区役所・自治会・老人会・家族代表が皆出席で和気あいあいと話がはずむ。そこで提案されたものは、サービス向上に活かしている。最近、地域包括支援センターを通して緊急で入所された人がいる。	地域のより多くの方々に理解と協力を得ている。前は自治会長や長寿クラブ会長、市職員、地域包括支援センター職員、西消防署、駐在署の署員などの参加を得て、幅広い報告と有意義な提案を頂き、サービスの向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市役所介護保険課・区役所・介護相談員とも連絡を密にとり、ご指導を仰ぎながらグランマの様子も分かっている。	密な連絡の積み重ねにより、理解が深まっている。区役所や民生委員から情報を得たり、当施設の様子を、他に説明や紹介してもらっていたりしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間のみ玄関・室内の鍵をかけている。日中はすべての窓・玄関に鍵をかけない(職員は見守りを怠らないようにしている。)身体拘束は一切なし。	夜間以外は施錠していない。前庭は広く建物も大きく開放感に溢れている。管理者はじめ全職員は利用者が笑顔で暮らすことを念願として介護しており、身体拘束は論外であることを理解している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待はいかなる時でもあってはならないことと職員一同理解している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設長が民生委員時に学んだことがあるので概ね説明されている。グランマでは利用している人はいない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関してはきちんと保証人と話し合い、両者納得の上行われている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族との信頼関係を築いているので、思っていること・要望をお互いに遠慮なく話し合っている。当然運営にも反映させている。	一日に一組程度の訪問者があり、日々、信頼の構築に心掛けている。また、年2回、食事会という感じで家族会を開催し、状況の報告、意向や希望を拝聴し、運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	常に職員とコミュニケーションをとり意見・提案を言いやすいようにしている。	月1回から必要に応じて2~3回話し合いの会を開催し、職員から意見や提案を聞く機会を作っている。また、職員だけの食事会を行ったり、職員旅行なども行い親密な関係を深め、運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	働きやすく、希望の持てる職場環境を作ることと職員の定着を図っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の個性を生かし良いところは伸ばし、未熟なところは皆でフォローしながらできるだけ研修の場を多くし、ケアの質を高める努力をしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	交流する機会の門戸を広げている。相互訪問でよいところを学ぶ。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前にご本人とも面談し、どのように接したら安心して頂けるかを職員同志で話し合ってお。、その方が望んでいるものを把握し、適切なケアをする。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が大切な家族の一員を預ける時、不安を感じないようにしっかりとコミュニケーションをとり、信頼してもらう。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	十分努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者さんの第2の家族になれるように信頼を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との食事会を開き、家族の方々と十分な信頼関係を築き、何でも話せる仲になっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族やお友達が訪問された時は、部屋でお茶とお茶菓子を出し、家にいるような雰囲気を楽しんでもらっている。	友人とのドライブ、外食、買い物などこれまでの生活暦の継続に支援している。また、年に1~2回、同窓会に参加する利用者もおり、洋服の買い物・美容院への外出など、馴染みの関係継続にはできる限り、支援の労を惜しまないようにしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員は仲をとりもち、楽しい生活が送れるようにコーディネートし、適切なアドバイスをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	責任を持って利用者さんの将来を考えて、施設の紹介をしている。転院先にも面会に行ったり、退去後お亡くなりになった場合、通夜・葬式に顔を出すようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入所時、入所後のアセスメントをしっかりとしている。	入所時に詳細なアセスメントを行い、入所後は日々の暮らしの中、利用者の会話や表情から意向や希望を汲み取り、利用者が笑顔で過ごせることを第一義とした優しい対応が確認された。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時、生活歴を記入してもらい把握をしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々、個別に観察に努め把握をしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	各職員が感じている個人別のケアを話し合っ、介護計画に反映している。	担当職員が中心になって日頃の生活状況や家族からの情報等を収集し原案作成を行い、計画作成担当者を含むチームで話し合い介護計画を作成している。家族の希望で職員と一緒に介護計画を作成している例もある。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	グランマ独自のものを作成し活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	各自の希望を聞き、なるべく取り入れるように努力している。例:同窓会の会場にお送りしたり、気分転換のため、急きょドライブや買物に出掛けることも多々ある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	四季の変化のある田園風景を眺めながらの毎日の散歩、庭で土いじりするなど自然に恵まれた環境の中で人間らしさを感じられる生活をしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族・医師と十分な連絡が取れている。(内科医と精神科医と受診を分けている。)	かかりつけ医は家族との話し合いにより対応し、基本的に事業所で受診支援を行なっている。協力医療機関の毎月健康診断の実施や往診、看護師は毎日利用者の状態を把握し、適切な医療支援が行なわれている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日365日朝晩勤めてくれる。顔色・健康状態を観察してくれているので早めの対応が出来る、みなさん元気でいられる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	聖隷三方原病院とのパイプが出来ている。その他、開業医とも信頼関係が保たれている。経営者の家族が医師なのでいつでも相談できる。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族・本人の希望に添えるよう話し合いをして決めている。	看取りケアに関する事業所の方針書、利用者や家族の意向を踏まえた同意書等が整備されている。事業主の家族が医師であることや看護師の協力が得られ、利用者・家族および介護職員にとって心強い体制が構築されている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	今まで本当に必要な場面がなかったが、訓練はしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	経営者が地元なので、自治会と密に連絡が取れるようになっている。	施設単独で避難訓練を行なっている。運営推進会議には警察や消防署の職員を交え防災について話し合い、自治会と全面協力体制も構築され、又有事の際には施設を住民に開放することも話し合われている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	理念の尊厳につながる問題として常に意識して実行している。	個々の利用者の尊厳に配慮した関わりを徹底するために目標達成計画を立て施設長はじめ、職員は勉強会を開いてケアの向上の取り組みを実践している。毎月自分の取り組みをチェック表に記入して自己分析・見直しをしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	何事も個人の意思を尊重し、希望がかなうように努力している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日その日、個々の体調に気を配りコミュニケーションをとりながら希望を聞き入れている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	職員は出勤したら、まず入所者の身だしなみをチェックし、年配の人でも綺麗な色を選んで身につけ、華やぐよう身だしなみに気を配っている。季節感やコーディネートが合っているか利用者と確認している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	家事の好きな方とともに、食事が楽しく明日へのエネルギーになるものを好みを聞きながら、作りたてを提供している。	毎食台所で出来たてのものが作られている。利用者が野菜を切ったり職員に料理を教えるなど利用者の力が発揮されている。献立の検討を利用者と一緒に行い、臨機応変に変更できるような工夫がされている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	基本的なことを十分に把握しており、個人個人にあった量や大きさなどにも配慮している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自力で行ける方は応援し、誘導が必要な方は定期的にと細かい配慮をしている。	排泄能力、パターンの把握をきめ細かく行い、個々の利用者の状況に適したトイレ誘導等の支援を行ない、自立を取り戻す支援を行なっている。日中紙パンツから布パンツに、更に夜間まで布パンツに移行できた事例がある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便通を良くすることがケアの原点と認識しており、水分や繊維の多いものを多く摂取するように努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本的には、毎日、介助が必要な方は、時間を決めている。自力で入れる方は自由。	希望がある利用者には自由に毎日入れる入浴支援を行なっている。拒否のある利用者へは声掛けや時間の工夫・職員の選択をするなど、一人ひとりの気持ち等に合わせた支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼間、庭に出たり、毎日の散歩で日光にあたるので、メラトニンという物質が出て夜はぐっすり眠れる。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員全員把握している。(効果と副作用)		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	1週間に2度ほど外出をし、買い物・食事・ドライブを楽しんでいる。また絵画・習字の好きな方には個別対応している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族と一緒に出かけられることもあり、職員・利用者や家族も含めて皆で出かけることも多い。時には観劇・漫才のディナーショーにも行く時がある。	毎日散歩や庭に出て外気浴をしている。(日によっては2回)桜の時期には毎日いろいろな所での花見や個々に応じた買い物、喫茶店に行くなど個別外出支援を臨機応変に行なっている。時には家族も一緒に出掛けている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	皆さんお財布に高額ではないが入れて持っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を持っている人があり、家族から取り次ぐ場合もあり、友人からの手紙も届き、外部との接触は大いにある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	自然環境に恵まれているので十分満たしていると思う。	明るく清潔な共有空間となっている。また“大人の生活を”という管理者の思いを反映し、壁面等への飾り付けは控えめで、落ち着いた雰囲気になれる絵が掛けられている。昨年まで和室であった場所がフローアにつながり更に有効活用されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自分の時間と共同の時間を作り皆さん十分楽しんでいる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	部屋に家族の写真を置いたり、野の花を生けたりし、清潔に明るい雰囲気になっている。	利用者一人ひとりが慣れ親しんだ家具等が置かれている。安心感や入居前の生活の継続性に配慮したしつらえをするために、できるだけ馴染みの物を持ち込んでもらい、利用者の意向を尊重した居室づくりを支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設の中は、事故の起きにくい安全な場所として提供されている。利用者が能力を十分に発揮できるように工夫・支援している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2277102709		
法人名	有限会社ライフクリエーション		
事業所名	グループホーム「グランマ」	ユニット名	ゆり
所在地	静岡県浜松市西区村櫛町3962		
自己評価作成日	平成22年 9月19日	評価結果市町村受理日	平成23年3月4日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://www.kaigo-kouhyo-shizuoka.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2277102709&SCD=320>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	セリオコーポレーション有限会社 福祉第三者評価・調査事業部		
所在地	静岡県静岡市清水区迎山町4-1		
訪問調査日	平成22年11月29日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当グループホームでは、「人間としての尊厳を大切に」という理念を第一に掲げています。個人の意志や自由を最大限尊重し、誇り高い生活を送っていただくという理想のもと、職員は、利用者の方々を日々お世話する中で、自問自答しながら、又、職員間で話し合いながら目標に向かって努力しています。豊かな自然に囲まれた環境は、利用者の心を穏やかに、優しくしてくれます。庭に出てお茶を飲んだり、風や光を感じながら散歩することで、人間本来の働きを回復して行きます。利用者の方々がいつまでも元気でいられるよう、脳リハビリを毎日楽しく行っており、利用者の皆さんが別名“グランマ学園”と呼んでくれています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

※複数ユニットの外部評価結果は1ユニット目の評価表に記入されています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員は理念を明確に理解しており、その理念のもとに各自が深く掘り下げた理念を共有し、実践・具体化している。	※複数ユニットの外部評価結果は1ユニット目の評価表に記入されています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎日、散歩時ゲートボールをしている地域の方々と公園で話を交わす。祭り・運動会・催し物に参加。地域のボランティアの踊り・音楽の訪問あり。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地元の小・中学生・大学生が夏休みに研修の場として訪れている。いつでも見学・相談・ボランティアを受け入れている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	区役所・自治会・老人会・家族代表が皆出席で和気あいあいと話がはずむ。そこで提案されたものは、サービス向上に活かしている。最近、地域包括支援センターを通して緊急で入所された人がいる。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市役所介護保険課・区役所・介護相談員とも連絡を密にとり、ご指導を仰ぎながらグランマの様子も分かっている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間のみ玄関・室内の鍵をかけている。日中はすべての窓・玄関に鍵をかけない(職員は見守りを怠らないようにしている。)身体拘束は一切なし。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待はいかなる時でもあってはならないことと職員一同理解している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設長が民生委員時に学んだことがあるので概ね説明されている。グランマでは利用している人はいない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関してはきちんと保証人と話し合い、両者納得の上行われている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族との信頼関係を築いているので、思っていること・要望をお互いに遠慮なく話し合っている。当然運営にも反映させている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	常に職員とコミュニケーションをとり意見・提案を言いやすいようにしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	働きやすく、希望の持てる職場環境を作ることとで職員の定着を図っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の個性を生かし良いところは伸ばし、未熟なところは皆でフォローしながらできるだけ研修の場を多くし、ケアの質を高める努力をしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	交流する機会の門戸を広げている。相互訪問でよいところを学ぶ。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前にご本人とも面談し、どのように接したら安心して頂けるかを職員同志で話し合っておく。その方が望んでいるものを把握し、適切なケアをする。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が大切な家族の一員を預ける時、不安を感じないようにしっかりとコミュニケーションをとり、信頼してもらう。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	十分努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者さんの第2の家族になれるように信頼を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との食事会を開き、家族の方々と十分な信頼関係を築き、何でも話せる仲になっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族やお友達が訪問された時は、部屋でお茶とお茶菓子を出し、家にいるような雰囲気を楽しんでもらっている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員は仲をとりもち、楽しい生活が送れるようにコーディネートし、適切なアドバイスをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	責任を持って利用者さんの将来を考えて、施設の紹介をしている。転院先にも面会に行ったり、退去後お亡くなりになった場合、通夜・葬式に顔を出すようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入所時、入所後のアセスメントをしっかりとっている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時、生活歴を記入してもらい把握をしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々、個別に観察に努め把握をしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	各職員が感じている個人別のケアを話し合っ、介護計画に反映している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	グランマ独自のものを作成し活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	各自の希望を聞き、なるべく取り入れるように努力している。例：同窓会の会場にお送りしたり、気分転換のため、急きょドライブや買物に出掛けることも多々ある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	四季の変化のある田園風景を眺めながらの毎日の散歩、庭で土いじりするなど自然に恵まれた環境の中で人間らしさが感じられる生活をしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族・医師と十分な連絡が取れている。(内科医と精神科医と受診を分けている。)		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日365日朝晩勤めてくれる。顔色・健康状態を観察してくれているので早めの対応が出来る、みなさん元気でいられる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	聖隷三方原病院とのパイプが出来ている。その他、開業医とも信頼関係が保たれている。経営者の家族が医師なのでいつでも相談できる。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族・本人の希望に添えるよう話し合いをして決めている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	今まで本当に必要な場面がなかったが、訓練はしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	経営者が地元なので、自治会と密に連絡が取れるようになっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	理念の尊厳につながる問題として常に意識して実行している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	何事も個人の意思を尊重し、希望がかなうように努力している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日その日、個々の体調に気を配りコミュニケーションをとりながら希望を聞き入れている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	職員は出勤したら、まず入所者の身だしなみをチェックし、年配の人でも綺麗な色を選んで身につけ、華やぐよう身だしなみに気を配っている。季節感やコーディネートが合っているか利用者と確認している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	家事の好きな方とともに、食事が楽しく明日へのエネルギーになるものを好みを聞きながら、作りたてを提供している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	基本的なことを十分に把握しており、個人個人にあった量や大きさなどにも配慮している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自力で行ける方は応援し、誘導が必要な方は定期的にと細かい配慮をしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便通を良くすることがケアの原点と認識しており、水分や繊維の多いものを多く摂取するように努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的には、毎日、介助の必要な方は、時間を決めている。自力で入れる方は自由。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼間、庭に出たり、毎日の散歩で日光にあたるので、メラトニンという物質が出て夜はぐっすり眠れる。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員全員把握している。(効果と副作用)		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	1週間に2度ほど外出をし、買い物・食事・ドライブを楽しんでいる。また絵画・習字の好きな方には個別対応している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族と一緒に出かけることもあり、職員・利用者や家族も含めて皆で出かけることも多い。時には観劇・漫才のディナーショーにも行く時がある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	皆さん財布に高額ではないが入れて持っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を持っている人があり、家族から取り次ぐ場合もあり、友人からの手紙も届き、外部との接触は大いにある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	自然環境に恵まれているので十分満たしていると思う。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自分の時間と共同の時間を作り皆さん十分楽しんでいる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	部屋に家族の写真を置いたり、野の花を生けたりし、清潔に明るい雰囲気になっている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設の中は、事故の起きにくい安全な場所として提供されている。利用者が能力を十分に発揮できるように工夫・支援している。		